

# 中学校社会科年間シラバス

## 3年間のねらい 学習目標

20世紀を代表するドイツの社会学者マックス＝ウェーバーは、「学ぶ人にとって最も大切な能力は驚く力である」と言った。社会科にひきつけて彼の言葉の意味を考えてみたい。世の中について、ちょっと不思議なこと、簡単に説明できないことに出会ったときに、強い知的好奇心をもって、そのことについて自らの考察を深め、説明を試み続けられることが重要だということである。

今自分が暮らしている世の中が当たり前で、不思議に思うことなど一つもないと軽々しく判断すべきではない。今自分が暮らしているように、日々の生活を営むことができるのは、長い歴史の中でも、世界のどの地域と比較しても、多くの奇跡の重なりによってもたらされたものだといってよい。それに気がつき、なぜ可能となっているのかという謎を解くためには、トレーニングが必要である。

世の中について、何を不思議に思い、どのように問いを発したら良いのか。それ探究するために、どのような知識を身につければよいか。どのような種類の手がかり（資料）をどのように活用すればよいか。得られた知見をどのようにまとめて、他の人が納得できるように提示すればよいか。これらを地理、歴史、公民の三つの分野から習得するのが中学校の社会科の目的である。

その上で現代を生きる人として、政治的、経済的、社会的、国際関係の諸事象について、何が解決すべき問題や課題であるか、また、社会の一員として問題や課題に対してどのように関わろうとすればよいかを主体的に考えられるようになることが必要であろう。

さらに、本校生の多くは高校・大学への進学を希望している。知的好奇心を涵養し、高校・大学での勉学のもととなる人文・社会科学諸分野の基礎的知識、資料収集・読解方法、レポート・小論文作成能力等を習得することも重要な目標である。

中学1年では、地理的分野を日本地理と世界地理に分けて学習することを基本とする。そのうえで、同志社香里の社会科を学ぶ上で求められる姿勢や身に付けるべき力の基礎を養う重要な時期と位置づけ、フィールドワーク等の体験活動を通して、知識獲得だけでなく、学ぶ姿勢や社会とのかかわり等、公民的資質の基礎となる力を身に付ける。

歴史に関しても、高校における世界史B（高校1年）や日本史B（高校3年）での学習を、広い視野を持って十分に吸収するための土台づくりに重点をおくのは従来通りであるが、今回の学習指導要領の改訂に伴い、歴史学習を次のように再構成した。すなわち、2年生の週3単位で古代から近世までを通史として学習するとともに、1単位は世界史内容の学習に充て、人類の誕生、国家成立、市民革命、産業革命などについて学ぶ。さらに、3年の歴史（近現代史）では、現代社会の成り立ち、特に、民主主義や資本主義について公民と並行して学ぶ。公民の学習と有機的に結び付け、理解を深めることが重要である。

中学3年で学ぶ公民では、それまでの学習で身につけた知識をもとにして、自分達が現実に生きる現代社会の構造について理解できることを目指す。そしてその過程において、学習者自らが主体性と目的意識を持って取り組み、高校での主体的な学習に向けて必要な素地をつくることを目指す。

## 社会①（地理的分野：日本地理 2時間）

学年	第1学年	教科書	帝国書院：『社会科 中学生の地理』（46 帝国 地理-723）
		副教材	帝国書院：『中学校社会科地図』（46 帝国 地図-722）、帝国書院：『アドバンス 中学地理資料』、その他自主教材など

## 学習到達目標

- ・小学校で学んだ知識に加えて、日本の国土の成り立ち、地形、気候、植生などについて学び、地域の特徴を把握できるようにし、様々な自然条件のもとで生きる人々の暮らしについて理解することができる。
- ・世界の自然と日本の自然を比較しながら学ぶことで、私たちの暮らしの特徴を深く考察し、理解することができる。

## 学習方法

- ・単なる暗記作業に留まることのないように、教科書を精読し、書かれている事柄や事項について、因果関係を含めて理解するように努める。
- ・地図帳や地形図などから、地図情報やその地域の地理的特徴を読み取る。
- ・地図帳などに記載されている統計データやグラフなどから必要な情報を読み取る。

- ・ビデオ教材、新聞、提示資料などから必要な情報を読み取る。
- ・授業での補足説明などをよく聞いて、自分なりの学習ノートを作成し、学んだ知識を再構成できるように努める。
- ・テレビのニュースや情報番組、新聞、インターネットなどの情報を積極的に活用し、学校で学んだ知識に厚みを持たせる。
- ・自分が理解したことを調べてレポートなどにまとめ、文章や図表を用いて的確に表現する。

**年間シラバス** (1年間の学習予定表)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	<p>1章 日本の姿</p> <p>世界の中での日本の位置 時差でとらえる日本の位置 日本の範囲 都道府県と地域区分 さまざまな地域区分と略地図</p> <p>2章 世界とくらべた日本の地域的特色</p> <p>自然環境の特色 人口の特色 資源や産業の特色 地域間の結びつきの特色</p>	<p>1. 知的好奇心の育成をはかる。 2. 学習習慣・姿勢(聞く態度とノートの取り方等)の確立をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで世界や日本について分けて学習してきたことを比較してまとめる。</li> <li>・ 山、川、平野、海岸、気候、自然災害などについて学ぶ。</li> <li>・ 日本の姿、世界の中心か極東か、南北に長い、海にかこまれている、世界各地との所要時間</li> <li>・ 領土、領空、領海 200 海里と紛争、北方領土と国境</li> <li>・ 7 地方区分</li> <li>・ JR やその他の区分</li> <li>・ 昔の国名、県名と県庁所在地、語源、府</li> <li>・ 世界の資源と産業、変わる日本の工業、輸入食料と日本の農林業、日本の農業地帯、水産業、エネルギー革命と原子力発電、流通革命、環境問題等について学び、日本が外国にどれだけ頼っているかを理解する。</li> <li>・ 伝統文化と変わっていく日本について理解する。</li> <li>・ 鉄道、道路、通信手段、時間距離で世界や日本をとらえる</li> <li>・ 外国との比較や関連、政治、経済、文化など、さまざまな面から日本を学ぶ。</li> <li>・ これまで世界や日本について別に学習してきたことを比較してまとめる。</li> <li>・ 地形図の読み方を作業しながら学ぶ。</li> </ul>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地理的事象に対する関心</li> <li>・ 地域的特色の考察と理解</li> <li>・ 地理的な見方や考え方</li> <li>・ 諸地域に関する地理的認識</li> <li>・ 様々な資料を適切に選択、活用する能力</li> <li>・ 地理的事象を多面的、多角的に考察し、適切に表現する能力</li> <li>・ 取り組みへの意欲や態度</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <p>定期考査や小テストなど</p> <p>ノート・レポート、プリント教材等の課題など</p>
2 学期	<p>3章 日本の諸地域</p> <p>九州地方 近畿地方 中部地方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島の多い県、交通と医療、観光地と観光客、都市と産業、災害などの観点から調べる。</li> <li>・ 関西と上方</li> <li>・ 横顔、私鉄と地下鉄、コリアンタウン、中小企業と地場産業、工業地帯、ベイエリア、関西国際空港、上水道、大阪と東京などの観点から大阪について理解す</li> </ul>	<p>【評価の観点】</p> <p>1 学期と同様</p> <p>【評価方法】</p> <p>定期考査や小テストなど</p> <p>ノート・レポート、プリント教材等の課題</p>

		る。 ・ 現地から取り寄せた資料やビデオなどを見て学習する。	
3 学 期	3章 日本の諸地域  関東地方 東北と北海道	・ 東京の影響力、首都圏、東京の再開発 ・ 北海道開発とアイヌ、ロシア	【評価の観点】 1・2学期と同様  【評価方法】 定期考査や小テストなど  ノート・レポート、プリント 教材等の課題

※授業の進行具合によっては内容が前後することもある。

## 社会②（地理的分野：世界地理 2時間）

学 年	第1学年	教科書	帝国書院：『社会科 中学生の地理』（46 帝国 地理-723）
		副教材	帝国書院：『中学校社会科地図』（46 帝国 地図-722）、帝国書院：『アドバンス 中学地理資料』、その他自主教材など

### 学習到達目標

- ・世界の国々について、自然条件のみならず歴史的背景や社会制度の違いにより多様なくらしが営まれていることを理解することができる。
- ・私たちが暮らしている地球がかげがえのないものであるということを理解し、持続可能な社会を築くために必要な知識や技能、姿勢や考え方を身に付けることができる。
- ・自らが主体的に調べ、考えて、色々な方法で表現するとともに、社会で必要とされる資質や技能についても体験的に学ぶことができる。

### 学習方法

- ・単なる暗記作業に留まることのないように、教科書を精読し、書かれている事柄や事項について、因果関係を含めて理解するように努める。
- ・地図帳や地形図などから、地図情報やその地域の地理的特徴を読み取る。
- ・地図帳やデータブックに記載されている統計データやグラフなどから必要な情報を読み取る。
- ・ビデオ教材、新聞、提示資料などから必要な情報を読み取る。
- ・授業での補足説明などをよく聞いて、自分なりの学習ノートを作成し、学んだ知識を再構成できるように努める。
- ・テレビのニュースや情報番組、新聞、インターネットなどの情報を積極的に活用し、学校で学んだ知識に厚みを持たせる。
- ・自分が理解したことを調べてレポートなどにまとめ、文章や図表を用いて的確に表現する。

### 年間シラバス（1年間の学習予定表）

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1章 世界の姿  地球をながめて 世界のおもな国 緯度と経度 地球儀と世界地図の違い 世界の略地図	1. 知的好奇心の育成をはかる。 2. 学習習慣・姿勢(聞く態度とノートの取り方等)の確立をはかる。  ・水の星、三大洋と六大陸、水半球と陸半球、経度・緯度と私たちのくらしなどについて学ぶ。 ・地球儀と世界地図の違いを理解し、使え	【評価の観点】 ・地理的事象に対する関心 ・地域的特色の考察と理解 ・地理的な見方や考え方 ・諸地域に関する地理的認識 ・様々な資料を適切に選択、活用する能力 ・多面的、多角的に考察し、

	<p>2章 世界各地の人々の生活と環境</p> <p>世界各地の市場をながめて 暑い地域の暮らし 寒い地域の暮らし 乾燥した地域の暮らし 高地の暮らし 世界の住居・衣服とその変化 世界の食文化とその変化 宗教と生活のかかわり</p>	<p>るようにする。時差の考え方、さまざまな図法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知ってる国を確認する。</li> <li>・統計から世界の国を知る。面積や人口、島国と内陸国、南北・東西に長い国など、特徴のある国を学ぶ。</li> <li>・国境線の成り立ちの違いを理解する。</li> <li>・州ごとに、主な国の国名、首都、国名の由来、特徴について学ぶ。</li> <li>・白地図で作業しながら、位置と国名を覚える。</li> </ul> <p>※世界の略地図がかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの造山帯、平野と川、海岸などの地形について学ぶ。</li> <li>・ケッペンの気候区分をもとに、世界の気候帯とその植生、風土などを理解する。</li> </ul>	<p>適切に表現する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みへの意欲や態度</li> </ul> <p>【評価方法】 定期考査や小テストなど</p> <p>ノート・レポート、プリント教材等の課題</p>
2 学 期	<p>3章 世界の諸地域</p> <p>アジア州 ヨーロッパ州 アフリカ州 北アメリカ州</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな特色があるのかを学習する。</li> <li>・貿易でつながる世界のように、技術の進歩でつながる世界のように理解するとともに、人類が克服できない「対立」について理解しようと努める。</li> <li>・歴史、民族、産業、文化の世界への影響、関係の深い国などの観点から世界の諸地域を理解する。</li> <li>・人口の多い国、多くの少数民族、変わる農業と農村、鉱工業、世界の中の中国という観点から中国について理解する。</li> <li>・歴史、工業・農業からみた結びつき、社会・政治からみた結びつき（EU）、人の動きからみた結びつき（観光業）</li> </ul>	<p>【評価の観点】 1 学期と同様</p> <p>【評価方法】 定期考査や小テストなど</p> <p>ノート・レポート、プリント教材等の課題</p>
3 学 期	<p>3章 世界の諸地域</p> <p>南アメリカ州 オセアニア州</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南半球にある2つの国の位置、人口・面積、自然、産業、国の歩みや文化などの観点から理解する。</li> </ul>	<p>【評価の観点】 1・2 学期と同様</p> <p>【評価方法】 定期考査や小テストなど</p> <p>ノート・レポート、プリント教材等の課題</p>

※授業の進行具合によっては内容が前後することもある。

社会①（歴史的分野：通史 3時間）

学年	第2学年	教科書	『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』（帝国書院）
		副教材	『最新歴史資料集』（明治図書）・『歴史基本用語集』（吉野教育図書）など

学習到達目標

日本を中心に、近代（19世紀）までの各時代について、その時代の特徴と、歴史的展開を、基本的歴史用語と史料の活用を踏まえ、批判的に考察・理解し、説明することが出来る。

学習方法

- ・授業に積極的に参加し、先生の話、他の生徒との質疑応答を注意深く聞く。
- ・教科書の章節ごとにどのような問いかけがなされ、その問いかけにどのような事柄（キーワード）を手がかりに、どのような説明を試みようとしているのかを読み取る。
- ・充実したノートをつくる。板書事項、板書事項の補足、授業中に口頭で行われたやりとりのメモ、よく理解できない用語の意味調べ、疑問点の整理、配布資料の整理などを行う。
- ・分からない用語は必ず辞典・用語集で調べ、ノート整理に加える。
- ・史料・資料から何をどのように読み取るべきかを習得する。
- ・知識の整理の為にプリント・課題・レポートなどを、指示に従い作成・提出する。
- ・歴史理解を文章や図解・チャートなどにまとめ、人に提示するトレーニングを行う。
- ・試験の予想問題を自分で作り、分からないものがあれば、積極的に質問する。
- ・新聞や書籍、ニュースなどで知ったことと歴史でならった事柄とを関連づける。
- ・地名・地形・産業・民族・文化などを扱う際には、地図を参照し、地理で学んだ事柄と関連づける。
- ・イメージを豊かにするために、歴史を題材とした映画や、漫画などを鑑賞する。

年間シラバス（1年間の学習予定表）

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1 導入 2 歴史学習の基礎・基本 3 時代の移り変わりを調べよう 4 古代国家の成立と東アジア ①人類の登場から文明の発生へ ②東アジアの中の倭（日本） ③中国にならった国家づくり ④展開する天皇・貴族の政治 5-1 武家政権の成長と東アジア（1） ①武士の世の始まり	1. 知的好奇心の育成をはかる。 2. 学習習慣・姿勢(聞く態度とノートの取り方等)の確立と構築をはかる。 3. 日本史の時代区分、記年法について、基本的な知識を習得し、活用できる。 4. 原始・古代の日本について、基本的な用語を習得し、時代の特徴と歴史的展開を理解できる。 5. 様々な史料を活用し、歴史的事実と付き合わせて考察し、歴史認識を示すことができる。	<b>【評価の観点】</b> ・歴史に対する興味、関心 ・歴史的な見方、考え方 ・様々な資料を適切に選択、活用する能力 ・歴史的事象を多面的、多角的に考察し、適切に表現する能力 ・取り組みへの意欲や態度  <b>【評価方法】</b> (小テスト) (復習テスト) 定期考査 提出物(ノート・レポート)など
2 学期	5-2 武家政権の成長と東アジア（2） ②武家政権の内と外 ③自力救済が広まる社会 6 武家政権の展開と世界の動き ①大航海によって結びつく世界 ②戦乱から全国統一へ ③武士による支配の完	1. 中世・近世の日本について、基本的な用語を習得し、時代の特徴と歴史的展開を理解できる。 2. 様々な史料を活用し、歴史的事実と付き合わせて考察し、歴史認識を示すことができる。	<b>【評価の観点】</b> 1 学期と同様  <b>【評価方法】</b> (小テスト) (復習テスト) 定期考査 提出物(ノート・レポート)など

	成 ④天下泰平の世の中 ⑤社会の変化と幕府の 対策		
3 学 期	7-1 近代国家の歩みと国際社会(1) ①欧米諸国における「近代化」 ②新しい価値観のもとで ③近代国家への歩み ④帝国主義と日本 ⑤「一等国」の光と影	1. 近代の日本について、基本的な用語を習得し、時代の特徴と歴史的展開を理解できる。 2. 様々な史料を活用し、歴史的事実と付き合わせて考察し、歴史認識を示すことができる。	【評価の観点】 1・2学期と同様  【評価方法】 (小テスト) (復習テスト) 定期考査 提出物(ノート・レポート) など

※ 担当者の配置によって、2時間と1時間に分けることがある

### 社会②(歴史的分野: 発展学習 1時間)

学 年	第2学年	教科書	『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』(帝国書院)
		副教材	『明解世界史図説エスカリエ』(明治図書)・『歴史基本用語集』(吉野教育図書)など

#### 学習到達目標

日本史理解の背景となる世界史上の諸事象について、基本的歴史用語や史料の考察を踏まえ、理解し、説明することが出来る。

#### 学習方法

- ・授業に積極的に参加し、先生の話、他の生徒との質疑応答を注意深く聞く。
- ・教科書の章節ごとにどのような問いかけがなされ、その問いかけにどのような事柄(キーワード)を手がかりに、どのような説明を試みようとしているのかを読み取る。
- ・充実したノートをつくる。板書事項、板書事項の補足、授業中に口頭で行われたやりとりのメモ、よく理解できない用語の意味調べ、疑問点の整理、配布資料の整理などを行う。
- ・分からない用語は必ず辞典・用語集で調べ、ノート整理に加える。
- ・史料・資料から何をどのように読み取るべきかを習得する。
- ・知識の整理の為にプリント・課題・レポートなどを、指示に従い作成・提出する。
- ・歴史理解を文章や図解・チャートなどにまとめ、人に提示するトレーニングを行う。
- ・試験の予想問題を自分で作り、分からないものがあれば、積極的に質問する。
- ・新聞や書籍、ニュースなどで知ったことと歴史でならった事柄とを関連づける。
- ・地名・地形・産業・民族・文化などを扱う際には、地図を参照し、地理で学んだ事柄と関連づける。
- ・イメージを豊かにするために、歴史を題材とした映画や、漫画などを鑑賞する。

#### 年間シラバス (1年間の学習予定表)

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1 導入 2 史料の種類と活用方法 3 人類の誕生と古代の世界 ①人類の誕生 ②世界各地の古代文明 ③世界宗教の誕生 ④東アジア世界の形成と日本 4-1 中世の世界(1) ①イスラーム世界の展開 ②キリスト教の展開	1. 知的好奇心の育成をはかる。 2. 学習習慣・姿勢(聞く態度とノートの取り方等)の確立と構築をはかる。 3. 原始日本・日本古代・中世史の展開の背景となる世界史的諸事象について、基本的な用語を習得し、時代の特徴と歴史的展開を理解できる。 4. 様々な史料を活用し、歴史的事実と付き合わせて考察し、歴史認識を示すことができる。	【評価の観点】 ・歴史に対する興味、関心 ・歴史的な見方、考え方 ・様々な資料を適切に選択、活用する能力 ・歴史的な事象を多面的、多角的に考察し、適切に表現する能力 ・取り組みへの意欲や態度  【評価方法】

			(小テスト) (復習テスト) 定期考査 提出物(ノート・レポート) など
2 学 期	4-2 中世の世界(2) ③ユーラシア交流圏と日本 ④明と東アジアの交流 5 近世の世界 ①ヨーロッパ人のアジアへの進出 ②明・清交代と東アジア	1. 日本中世・近世史の展開の背景となる世界史的諸事象について、基本的な用語を習得し、時代の特徴と歴史的展開を理解できる。 2. 様々な史料を活用し、歴史的事実と付き合わせて考察し、歴史認識を示すことができる。	【評価の観点】 1 学期と同様  【評価方法】 (小テスト) (復習テスト) 定期考査 提出物(ノート・レポート) など
3 学 期	6 近代の世界 ①欧米の発展とアジアの植民地化 ②帝国主義とアジア・日本	1. 日本近代史の展開の背景となる世界史的諸事象について、基本的な用語を習得し、時代の特徴と歴史的展開を理解できる。 2. 様々な史料を活用し、歴史的事実と付き合わせて考察し、歴史認識を示すことができる。	【評価の観点】 1・2 学期と同様  【評価方法】 (小テスト) (復習テスト) 学年末考査 提出物(ノート・レポート) など

### 社会①(歴史的分野:通史1時間)

学 年	第3学年	教科書	『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』(帝国書院)
		副教材	『最新歴史資料集』(明治図書)・『歴史基本用語集』(吉野教育図書)など

#### 学習到達目標

現代(20世紀以降)の世界について、日本を中心にその歴史的特徴と、歴史的展開について、歴史用語と資料の活用を踏まえ、理解し、説明することが出来る。

#### 学習方法

- ・授業に積極的に参加し、先生の話、他の生徒との質疑応答を注意深く聞く。
- ・教科書の章節ごとにどのような問いかけがなされ、その問いかけにどのような事柄(キーワード)を手がかりに、どのような説明を試みようとしているのかを読み取る。
- ・充実したノートをつくる。板書事項、板書事項の補足、授業中に口頭で行われたやりとりのメモ、よく理解できない用語の意味調べ、疑問点の整理、配布資料の整理などを行う。
- ・分からない用語は必ず辞典・用語集で調べ、ノート整理に加える。
- ・史料・資料から何をどのように読み取るべきかを習得する。
- ・知識の整理の為にプリント・課題・レポートなどを、指示に従い作成・提出する。
- ・歴史理解を文章や図解・チャートなどにまとめ、人に提示するトレーニングを行う。
- ・試験の予想問題を自分で作り、分からないものがあれば、積極的に質問する。
- ・新聞や書籍、ニュースなどで知ったことと歴史でならった事柄とを関連づける。
- ・地名・地形・産業・民族・文化などを扱う際には、地図を参照し、地理で学んだ事柄と関連づける。
- ・イメージを豊かにするために、歴史を題材とした映画や、漫画などを鑑賞する。

#### 年間シラバス (1年間の学習予定表)

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	7-2 近代国家の歩みと国際社会(2) ② まるで民主シーの	1. 知的好奇心の育成をはかる。 2. 学習習慣・姿勢(聞く態度とノートの取り方等)の確立と構築をはかる。	【評価の観点】 ・歴史に対する興味、関心 ・歴史的な見方、考え方

	意識 ②軍国主義と日本の行方 ③アジアと太平洋にひろがる戦線	3. 現代史 (20 世紀前半) の展開について、基本的な用語を習得し、時代の特徴と歴史的展開を理解できる。 4. 様々な史料を活用し、歴史的事実と付き合わせて考察し、歴史認識を示すことができる。	・様々な資料を適切に選択、活用する能力 ・歴史的事実を多面的、多角的に考察し、適切に表現する能力 ・取り組みへの意欲や態度  【評価方法】 (小テスト) (復習テスト) 定期考査 提出物 (ノート・レポート) など
2 学期	8 現代に続く日本と世界 ①敗戦から立ち直る日本 ②経済大国日本 ③これからの日本と世界	1. 現代史 (20 世紀後半) の展開について、基本的な用語を習得し、時代の特徴と歴史的展開を理解できる。 2. 様々な史料を活用し、歴史的事実と付き合わせて考察し、歴史認識を示すことができる。	【評価の観点】 1 学期と同様  【評価方法】 (小テスト) (復習テスト) 定期考査 提出物 (ノート・レポート) など
3 学期	10 歴史の総復習	1. 日本史上の各時代の特徴と歴史的展開について、世界史的背景を踏まえて理解できる。 2. 様々な史料を活用し、歴史的事実と付き合わせて考察し、歴史認識を示すことができる。	【評価の観点】 1・2 学期と同様  【評価方法】 (小テスト) (復習テスト) 定期考査 提出物 (ノート・レポート) など

## 社会② (公民的分野 : 3 時間)

学年	第 3 学年	教科書	帝国書院『社会科 中学生の公民 よりよい社会をめざして 新訂版』(帝国 294)
		副教材	吉野教育図書編集部『公民基本用語集』、自主教材、ビデオ教材等

### 学習到達目標

- ・地理、歴史で学んだ知識をもとに、私たちが暮らしている社会のしくみやルールについて理解し、私たちの暮らしがどのように維持されているか、また、これからどのような社会を築いていくべきかについて考えることができる。特に、民主政治の基本原則や資本主義経済のしくみについて、用語を覚えるだけに留まらず、具体的な事例を踏まえて理解することができる。
- ・国際社会と主権国家の関係について学ぶとともに、食糧、エネルギー、環境、軍事、貧困など、人類共通の課題を理解し、解決するための方法を考えることができる。
- ・中学生生活の総括として、学び、考えたことをレポートや企画書、提案書などの体裁に整え、企業や官公庁などに提案することができる。

### 学習方法

- ・単なる暗記作業に留まることのないように、教科書を精読し、書かれている事柄や事項について、因果関係を含めて理解するように努める。
- ・用語集やデータブックに記載されている文書、統計データやグラフなどから必要な情報を読み取る。
- ・ビデオ教材、新聞、提示資料などから必要な情報を読み取る。



- ・授業での補足説明などをよく聞いて、自分なりの学習ノートを作成し、学んだ知識を再構成できるように努める。
- ・自分が理解したことをレポートなどにまとめ、文章や図表を用いて的確に表現する。
- ・テレビのニュースや情報番組、新聞、インターネットなどの情報を積極的に活用し、学校で学んだ知識に厚みを持たせる。
- ・中学生生活の総括として、学び、考えたことをレポートや企画書、提案書などの体裁に整え、企業や官公庁などに提案する。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	第1部 私たちと現代社会 1章 私たちの現代社会の特色 2章 私たちの生活と文化 3章 現代社会の見方・考え方 第2部 私たちの暮らしと民主政治 1章 民主主義について考えよう 2章 日本国憲法について考えよう 3章 住民として地方の政治を考えよう 4章 国民として国の政治を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の成り立ちと特徴、経済成長とくらしの変化、そして、問題点を学ぶ。</li> <li>・生活と文化のつながりについて考える。</li> <li>・伝統文化の重要性について学ぶ。</li> <li>・社会としての家族の存在を考える。</li> <li>・社会生活における問題点を学ぶ。</li> <li>・民主主義の歴史的成り立ちを学ぶ。</li> <li>・人権獲得の経緯を考える。</li> <li>・日本国憲法の制定と国民主権、基本的人権について考える。</li> <li>・公共の福祉と国民の義務、平和主義について考える。</li> <li>・地方自治、地方公共団体の仕事と財政について知る。</li> <li>・国民の意思を生かす選挙のしくみと特徴について学ぶ。</li> <li>・政党の役割について学ぶ。</li> <li>・国会、内閣、裁判所の地位としくみについて学ぶ。</li> <li>・三権分立のしくみとその意義について考える。</li> </ul>	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会に対する興味、関心</li> <li>・現代社会についての見方、考え方</li> <li>・社会的事象を多面的、多角的に考察し、適切に表現する能力</li> <li>・様々な資料を適切に選択、活用する能力</li> <li>・取り組みへの意欲や態度</li> </ul> <p>【評価方法】 (小テスト) (復習テスト)</p> <p>定期考査 ノート、レポート、プリント 教材等の課題</p>
2 学期	第3部 私たちの暮らしと経済 1章 私たちの生活と経済について考えよう 2章 消費者として経済を考えよう 3章 企業を通して経済を考えよう 4章 納税者として経済を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くらしと経済の仕組みについて学ぶ。</li> <li>・家計の収入と支出、流通、お金の流れ、市場のしくみと価格の決め方、独占価格と公共料金等について学ぶ。</li> <li>・生産活動、企業のしくみ、市場経済のしくみ、金融のしくみと日本銀行の働き、働くことの意味と職場の問題、男女共生社会と労働環境の整備について考える。</li> <li>・財政のはたらきについて学ぶ。</li> <li>・景気の動きとその対策について学ぶ。</li> <li>・社会保障のしくみについて学ぶ。</li> <li>・生活環境の改善、社会資本の整備につい</li> </ul>	<p>【評価の観点】 1学期と同様</p> <p>【評価方法】 (小テスト) (復習テスト) 夏休み課題</p> <p>定期考査 ノート・レポート、プリント 教材等の課題</p>

		て学ぶ。	
3 学 期	<p>第4部 私たちの暮らしと国際関係</p> <p>1章 世界平和の実現をめざして</p> <p>2章 私たちの地球をみつめて</p> <p>第5部 よりよい社会をめざして</p> <p>1章 持続可能な社会をめざして</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会と主権国家について学ぶ。</li> <li>・国際連合のしくみとはたらきを学ぶ。</li> <li>・地域統合、南北問題について考える。</li> <li>・地球環境問題について考える。</li> <li>・地球温暖化に考え、我々が取り組める環境対策を考える</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球に住む人間として多種多様な問題点を探り解決策を考える。</li> </ul>	<p><b>【評価の観点】</b> 1・2学期と同様</p> <p><b>【評価方法】</b> (小テスト) (復習テスト) 定期考査 ノート・レポート、プリント 教材等の課題</p>